

## 「静岡市相談支援事業者等における相談事例及びその解決方法と地域連携課題について（概要）」

行政区	A区障害者相談支援連絡調整会議	B区障害者相談支援連絡調整会議	C区障害者相談支援連絡調整会議
個別ケースの事例名	強度行動障害のある子の通学支援	重症心身障害のある人の通園と保護者の就労の両立	多問題家族のトータルな支援
地域課題	強度行動障害をもつ人の登下校支援や障害福祉サービスの利用が困難であるという課題	家族（介護者）の都合が、安定した日中生活の場に変化をもたらすという課題	精神障害のある人の介護、支援の具体策（ツール）が、他の障害に比べて十分ではないという課題
現況と問題	障害	強度行動障害（適切な支援策が不明）	重症心身障害（要24時間介護）
	家族	母・本人（子）（父とは別居）	母・本人（子）
	現在の支援の問題	①特別支援学校高等部への通学方法の確保（原則自主通学、スクールバスは難しい） ②強度行動障害には手厚い支援が必要	①重症心身障害児（者）B型通園に送迎がない ②施設の預かり時間の延長がない ③母が就職した後は、送迎が難しくなる予想 ④母の就労（経済的自立）と本人の安定した生活の両立
課題	提供主体	学校（教育）と福祉が、どのように役割分担を行うか	本人の送迎の問題を、単に母の問題ととらえるべきなのか
	支援の方向	通学支援に課題を絞るか、それとも強度行動障害のある人のトータルな支援と考えるか	本人・・・他サービスの活用 母・・・就労の前に生活基盤を安定させる
課題への対応案	強度行動障害のある人への支援の具体化	ハローワークと福祉との事前調整の仕組みづくり（「就労支援」指導の前に、家族の事情との調整が必要） 資源（施設）間の連携を図る仕組みづくり	相談支援事業所によるヘルパー事業所への助言・指導
対応策の選択肢	A 現行サービスの利用	原則として、移動支援は通学目的では使えない	母は、B型通園の時間に合わせる形で就労訓練（資格講座の受講）を行っている（ただし、講座を遅刻・早退することもある）
	B 資源の活用・拡充・改善	①福祉有償運送の利用（金銭的負担が重い） ②スクールバスの利用拡大（現行では難しい）	①施設の運営改善と他施設への協力依頼（延長預かり、早朝預かりなど） ②他のサービス（短期入所）の利用
	C 地域連携による解決	①地域の強度行動障害者の実態把握とその対応について研修の実施 ②学校と福祉とのサービス調整等を総合的に進めるための仕組みの整備	①経済的な自立を促すだけでなく、家族の事情に合わせた母への指導の実施（ハローワークと福祉との連携）
	D 資源の開発（抜本的な解決策）	①強度行動障害を対象としたサービスの整備	①家族が送迎できない場合の送迎手段の確保（施設の送迎バスの確保、送迎時の看護師の配置など）